

全国的な学力調査のC B T化検討ワーキンググループ 中間まとめ「論点整理」（令和2年8月28日）より抜粋

<総論>

（1）調査の目的と実施方法等が表裏一体の関係にあること

全国学力・学習状況調査において、全国的な傾向の把握を目指すのか、児童生徒・学校単位などでのきめ細かい指導の改善に活用することを目指すのか、年度間の学力の変化等の把握もできるようにするのか、などの調査の目的と、引き続き一斉実施で行うか、調査対象は悉皆か抽出か、解答は選択式か記述式を含めるか、調査問題は公開するか否かなどの調査の実施方法などは、相互に他の在り方に大きな影響を及ぼす面がある。また、経年変化分析調査や全国学力・学習状況調査と別に地方自治体が行っている学力調査との役割分担等も含め、全国学力・学習状況調査の在り方として総合的に検討を行う必要がある。